

学校教育目標	夢をはぐくみ 自ら考え学び 共に伸びる 八重東っ子の育成 ○進んで自分から学び、みんなで伸びる子供 ○思いやりや社会性など豊かな心を持った子供 ○基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な子供	学校経営理念 <ミッション>	◆児童の生命を守る(学校管理・指導の徹底) ◆校長を中心とした組織的な学校経営・運営 ◆学校のミッションを自覚した学校経営と教職員の力量向上	◆地域とともに創る学校・信頼される学校 ◆法規・法令・規則等に基づいた学校経営
--------	--	-------------------	--	--

2 経営目標・教育目標・評価・達成状況

目標・目標のための方策・目標値 等					自己評価					学校運営協議会表評価		改善方策	
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値 [年間]	2月 (目標)	2月 (達成)	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント		
自ら考え学ぶ力の育成	基礎・基本の学力の定着	① 学びの变革・基礎学力の定着	○学びの選択と自己調整を意識した授業改善 ・授業時間内の工夫 ・授業と関連付けた家庭学習 ・自主学習の充実 (学びのフィードバック :ノート紹介、学びの個人貯金など) ○対話の工夫 ・つなぐとわーど等の活用による学習の深まり	○児童アンケート ・主体的に学習に取り組めた70%以上 ・対話により学習が深まりを感じる児童 70% ○授業参観での見取り 70%以上 ○単元テスト 国語・算数における学級平均 80点以上	70%	93%	132%	A	A	【結果】 ◎児童アンケート 主体的93% 対話87% ◎単元末テスト学級平均80点以上 86% ◎指導者の見取り 70%以上 78% 【分析】対話を通して考えが深まったり、新たな考えに気付いたり、友達の意見に反応したり自分の理解度を伝えたりする児童が増えた。また、学習が深まったと実感している職員も多い。毎月目標を決めて自主学習に取り組ませることで意欲向上した。 【今後】自主学習の取組の継続。自己調整し、自主学習の質の向上。わからないことが自分から伝えられる児童、わかったふりをしない児童の育成。	A	○授業改善を続けている成果が出ている。授業改善の内容も記載するとよい。 ○自主学習等の取組は継続されるとよい。	○学びの選択と自己調整、対話による授業研究を続ける。
			○体育の授業改善 ・運動時間の確保 ・「体育すき」を増やすセットメニュー実施 ○「投力・柔軟性」の取組充実 ・運動会、マラソン大会での取組充実 ・体力アップ朝会 ・投げ方指導 ・目標設定 (伸びのフィードバック :年間複数回の測定で伸びを確認)	○新体力テスト ・長座体前屈 ・ソフトボール投げ 【中間(1回目)】 ①総合評価C以上 70%以上 【年度末(2回目)】 ②1回目以上の結果 70%以上	①70%	②83%	②119%	A	A	【結果】◎「運動をすることが好き」93% 「体育が好き」96% ◎総合評価C以上 83% ◎長座体前屈、ボール投げの記録が1学期を上回った児童84% 1学期からの伸び ・長座体前屈 男子112%、女子111% ・ボール投げ 男子122%、女子115% 【分析】行事、なわとび朝会、体育のセットメニューの取り組みを継続により、向上。委員会と連携し、トレーニング動画を作成し、家庭に啓発。 【今後】行事前などに児童委員会の活動として、主体的な取組の継続	A	○なわとび大会の様子を見ると、非常に一生懸命に児童が活動してよい。楽しんで運動ができる工夫を続けてほしい。 ○給食試食会があることは家庭にとっても、どのような食事が良いかの指標になってよいので継続するとよい。 ○給食に合わせた読み聞かせをやっていくことは続けたい。	○児童委員会を活用した自主的な取組となるように学校行事を工夫する。 ○体育や運動が好きになる児童が増える取組を継続する。 ○体力テストの項目で弱いところを補充するようなセットメニューを授業でも取り組む。
健やかな心身の育成	心身の健康の保持増進	② 体力の向上	○好き嫌いを減らし、バランスよく食べる食育指導の充実 ・養護教諭による学級指導 ・食育に関する意識向上 (保健だより・学級通信)	○児童アンケート 好き嫌いを減らして食べようとしている 肯定的回答80%以上	③80%	③97%	121%	A	A	【結果】◎「残さず食べようとしている」:97% ・規程量を食べられる児童が増えてきた。3・4年生で栄養教諭による1年学級 PTC での給食試食会の実施。 【分析】学級に合った担任の給食指導、声掛けを継続により、向上。 【今後】給食試食会の実施。栄養教諭との食育指導の実施。委員会での取り組み。通信などで保護者に啓発、指導を継続。養護教諭による保健指導の実施。	A	○先生方や学級、特に高学年の学級の雰囲気が良い。互いに助け合ったり、意欲的に活動したりする様子が学校全体の雰囲気につながるので、今後も継続していくとよい。 ○地域でのあいさつは少しずつ改善している。	○自己肯定感が高まる取組と、自己で問題解決ができる力を養う取組を続ける。(SST) ○生活のきまりの見直し等は、児童も含めて話し合うことで、規範意識を高める。 ○生活目標、あいさつ、掃除については、児童会を中心に、取組ませ、自分事として捉えられるようにする。
		③ 基本的な生活習慣の定着	○ほめほめカード(他者・自分の良さをほめる) ○総合単元的な道徳を要とする授業・生活目標・学校行事の関連	○児童アンケート 肯定的回答 80%以上	80%	95%	118%	A	A	【結果】◎自分自身に良さを感じている児童 94% ◎他者に対する良さを感じている児童 97% 【分析】児童と積極的に関わり、児童同士の関り、児童と先生の関りが良好のため、児童も自己肯定感、自己有用感を感じることができた。児童理解に努め、発達支持的生徒指導を基盤とした教育を継続。 【今後】継続して自己有用感を高める取り組みの実施、各学級での発達支持的生徒指導の継続、適切な児童理解	A	○生活目標やきまりを意識して過ごせた児童 95% ◎あいさつ名人や達人に選ばれる児童が各学級複数人いる ●あいさつや返事ができていない場面がある ●規範意識が身に付いていない児童がいる 【分析】児童会による集会などの取り組みや SST、きまりの見直しなどにより、自分事として捉えることにつながり、社会性や規範意識が向上した。 【今後】あいさつや返事の他者評価、生活目標に対する手立ての話し合い、SST の継続、児童会の取組の継続実施	○生活目標、あいさつ、掃除については、児童会を中心に、取組ませ、自分事として捉えられるようにする。
豊かな心の育成	思いやりや社会性の醸成	④ 自分も友達も大切にできる子どもの育成(自己有用感)	○あいさつ名人・あいさつ達人 ○年間を通じて実施する計画的な SST(ソーシャルスキルトレーニング)	○児童アンケート 肯定的回答 80%以上	80%	95%	118%	A	A	【結果】◎生活目標やきまりを意識して過ごせた児童 95% ◎あいさつ名人や達人に選ばれる児童が各学級複数人いる ●あいさつや返事ができていない場面がある ●規範意識が身に付いていない児童がいる 【分析】児童会による集会などの取り組みや SST、きまりの見直しなどにより、自分事として捉えることにつながり、社会性や規範意識が向上した。 【今後】あいさつや返事の他者評価、生活目標に対する手立ての話し合い、SST の継続、児童会の取組の継続実施	A	○生活目標、あいさつ、掃除については、児童会を中心に、取組ませ、自分事として捉えられるようにする。	
		⑤ 社会性の醸成(あいさつ・返事・ルール)	○生活科・総合的な学習の時間を中心とした「ふるさと学習」の展開 ・地域の方と児童・教職員の協創 ・ふるさとへ愛着を感じ、宝と出会い、すばらしさを発信する学び	○児童アンケート 「ふるさとが好き」 「ふるさとに貢献」 肯定的回答 90%以上	90%	95%	106%	A	A	【結果】◎「ふるさとが好き」95% 「ふるさとに貢献したい」94% ◎地域の人材との連携、ふるさと学習実施 全学年 【分析】児童・教職員で地域の方と学びを創ることができた。 【今後】今年度の振り返りの引継ぎ、次年度のふるさと学習の計画等を改善	A	○ふるさと学習の取組は非常に良い。今後、GTを招く際は、事前打ち合わせも丁寧なやりとにより良い学びにつながる。	○ふるさと学習は、今年度の反省を生かし、来年度の計画を改善して続ける。計画的に取り組めるように、GTとは早めに連携を取る。
信頼される学校づくり	信頼され、地域に貢献する学校づくり	⑥ ふるさと学習の充実(地域貢献)	○参画意識を実感できる業務改善 ・業務内容の検討と改善見通しの確認(年間2回の意見集約と検討) ・ボトムアップ&ミドルアップの実現	【ストレスチェック指標】 「上司からの支援」 「同僚からの支援」 全国平均以上	-	9.5	9.4	A	A	【結果】ストレスチェック結果◎「上司からの支援」9.5 ◎「同僚からの支援」9.4 ○仕事や生活の満足度6.5(全国平均はいずれも 6.6と8.2、5.5) 【分析】支援や仕事や生活の満足度、働き甲斐については、昨年度同様、引き続き高い。一企画委員会や学校衛生委員会業務改善を協議の実行。学校衛生委員会の構成メンバーを全職員が参画した点と業務改善のコツを全体で研修した点 【今後】引き続き、業務改善について全職員が参画できる、業務改善のコツを全体で研修の実施。	A	○仕事の持ち帰り等も減らしていけるように今後取組を続けてほしい。	○働きやすさにつながるように、引き続き業務改善の研修を行う。
		⑦ 働き方改革(ワーク&ライフバランス、働き甲斐)											

【自己評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60 【学校運営協議会評価】 A:自己評価は適正である B:自己評価はほぼ適正である C:自己評価はあまり適正でない D:自己評価は適正でない E:分からない